

スリランカの文化をお知らせする

ランカ
Lanka
タイムズ
Times



アーユボーワン。(スリランカの言葉で「こんにちは」)

今年の冬至は12月21日。冬至にかぼちゃを食べると風邪をひかないと言われますよね。

かぼちゃの原産国はメキシコなどの中南米で、もともと暑い国の野菜です。日本でも収穫期は夏から秋ですね。

スリランカでも日本と同じようにかぼちゃが食べられていて、スリランカの公用語の1つであるシンハラ語でかぼちゃは「ワッタッカー」と言います。



スリランカのかぼちゃ料理と言えば、カレーが一般的。数種類のカレーを用意して、お好みで混ぜて食べるのがスリランカ流です。

市のホームページでは、スリランカカレーのレシピを公開しています。今年の冬至には、かぼちゃカレーを食べてみませんか？

カレーのレシピはコチラから

⇒<https://www.city.sammu.lg.jp/page/dir002278.html>

文化会館催し物

岡 成東文化会館 ☎0475(82)5222
さんぶの森文化ホール ☎0475(80)9700

12月の休館日：7日(月)、14日(月)、21日(月)、28日(月)～31日(木)

サロンコンサートvol.214 Jeffrey Trambley Special Christmas Live

出演 Jeffrey Trambley ほか
日時 12月18日(金) 開演19:00
場所 成東文化会館のぎくプラザ ホール
入場料 1000円 全席自由
内容 クリスマスの雰囲気たっぷりの素敵なコンサートをお届けします。

サロンコンサートvol.215 山田路子新春横笛コンサート

出演 山田路子 ほか
日時 1月15日(金) 開演19:00
場所 成東文化会館のぎくプラザ ホール
入場料 1000円 全席自由
内容 日本の伝統楽器である横笛・篠笛・能管を用い、古典の技術を学びながらオリジナルの世界を追求した演奏をご堪能ください。



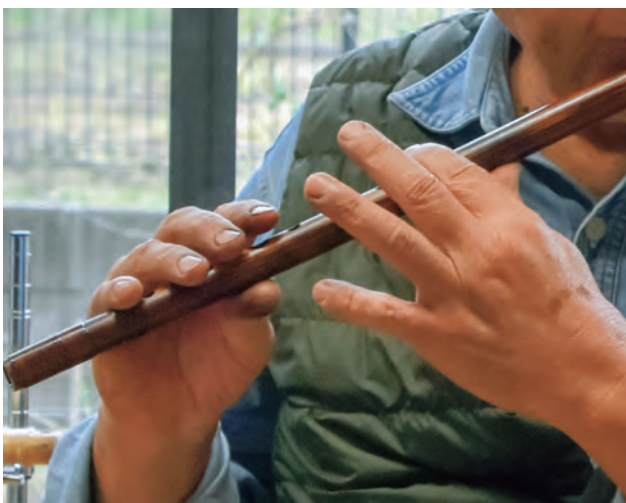
さんぶの森ふれあいコンサート vol.17 フルートカルテット・マジカルコンサート

出演 フルート：宗形彩、桑原友美、眞鍋朋子、神明弘奈
ピアノ：湯田聡子
日時 1月9日(土) 開演14:00
場所 さんぶの森文化ホール
入場料 入場無料 全席自由
内容 独奏から四重奏まで様々なスタイルでフルートの響き、その魅力をたっぷりお届けします。ご家族の皆さんでお気軽にお楽しみいただけるフルートコンサートです。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、ご来場の際にはマスクの着用、検温、名簿のご記入をお願いします。

笛師 蘭照さん
らんじょう

山武市で竹を使った和笛の製作を40年以上続ける蘭照さん。祭り囃子^{はやし}好きが高じて笛をつくり始め、その奥深さを知ることさらに構造や製法を追求。正確な西洋音楽の音階でよく鳴る笛を実現し、今や国内の和笛演奏家の8割以上が愛用しています。海外からも買い求めに来るほど世界的な笛師です。ご自宅からほど近い工房をお訪ねし、お話を伺いました。



最初は見よう見まねから

「子どものころから祭りのお囃子が大好きで、笛の音が聞こえると居ても立ってもいられませんでした」
小学2、3年生のころには、自分で笛をつくったと言います。

高校を出てからは横浜でサラリーマンをしていましたが、寺田（上横地）の実家を継ぐために帰郷。ちょうどそのころ地元の小柳八坂神社祭りを復活しようという動きがあつて、自作した笛で参加しました。しばらくはアルバイ

正確でよく鳴る笛を探究

トをしながら笛をつくっていましたが、1983年ころ、佐渡に本拠を置く和太鼓集団「鼓童^{こどう}」が飯岡に来たので、思い切つて自作のお囃子の笛を持参しました。

「使えないと言われるのが関の山だと思っていました。『こない笛をつくる人がいる』と驚かれました」

正確なドレミ音程の笛を実現

和笛は能、雅楽、祭り囃子などそれぞれ独自の音階を持っていますが、鼓童で使われていた笛はドレミの西洋音階の笛でした。

「それでドレミの笛を急いでつくって送ったんです。それが始まりです」

それまでもドレミの和笛はあったものの、オクターブ上がると音程がずれてきて、それを奏者はメリ・カリという、顔を上げたり下げたりすることで音程を調節して吹いていました。蘭照さんは内部の構造を調整して、指使いだけで正確な音程の出る笛を探究してきました。

「初めはうまくできませんでしたが



蘭照さんの製作した能管

が、いろんなところでヒントをいただいたり、ここがよくないと言われて直したりしながら3オクターブ正確なドレミが出るまでになりました」

また、管の中で同じ周波数の音が重なることで遠くまで響くことを発見。よく鳴る笛を実現してきました。

「プロが使ってくれるようになって一気に全国に広まりました」

現在は昔からの製法のお囃子の笛などを除いて9割がドレミの笛だといい、その9割が蘭照さんの笛だろうとのこと。

正確な音程が取れるため、西洋楽器といっしょに演奏することもでき、海外からも買い求めに来る人がいるほどになっています。

さまざまな笛づくりに挑戦

蘭照さんは篠竹^{しのだけ}からつくる簡素な篠笛だけでなく、豪華な装飾の



入った龍笛や能管まで製作の幅を広めています。また、尺八に使われる真竹で横笛をつくるなど、さまざまなバリエーションも生み出しています。

初期のころは熊手の柄を切って笛にしていたといいますが、本格的に製作するようになってからは年に1回、長生郡の竹林に行つて竹を分けてもらっています。採ってきた竹は一節ずつに切つて虫が付かないようにゆで上げます。

1カ月天日干しにした後、4、5年陰干しにしてようやく笛に使えるようになります。

その竹を長さや太さから選び、温めて真つすぐにした後、ドリルで孔を開け、音程を確かめながらナイフで孔を広げていきます。無料で配るような簡素な笛は内部にすぐ乾く塗料を塗って30分もあれば完成しますが、きちんとした製品は何度も漆を塗って籐を巻いてさらに漆を重ねるため数カ月から



半年以上かかります。さまざまな種類を含めて、年間2500管つくると言います。

愛好家や子どもたちの手ほどきも

一方、工房では子どもたちに笛を教えています。

「すぐに高度な演奏ができるわけではありません。アニメの主題歌やヒット曲など、知っている曲を吹いていくことで、笛の楽しさを知ってもらえればと思っています。大人の方も、印西や袖ヶ浦、蓮沼などから来ています」

また、最近では周りの人に助けられてツイッターで発信もしています。

「自分ではパソコンもスマホもできないんですけどね。世界中から問い合わせが来たりして、不思議な気持ちです」

難しくはないが簡単ではない

独学で和笛を極めてきた蘭照さんですが、笛づくりを始める人には厳しい言葉も。

「教えてくれと来た人もいますが、どうも簡単に考えすぎてるみたいで。孔を開ければいいというものじゃありません。内部の構造もそうですが、竹の材質までわからないといけない。ちゃんといろんなことを覚えていけば難しくはないんですが、簡単だと思わないことです。今後の笛づくりは今まで試行錯誤してきた「道」を継承することです。それともう少し誰でも簡単に吹ける笛があるんじゃないかなと模索しています。ちゃんと教えれば、みんなできるはずですよ。そんなことで1日でも長くやっていきたいと思っています」

●本名 長谷川 照昭

1947(昭和22)年山武市上横地生まれ。島(成東地区)在住。下武射田(東金市)に工房を構える。当初「蘭情」と名乗ったが2017(平成29)年に「蘭照」と改名。



健やかに育て 我が家のアイドル



あきにわ そうすけ
秋庭 壮佑くん
H30.8.2生

外で遊ぶのが大好き！すべり台、ブランコ、ボール遊び、水遊び、etc. 毎日元気いっぱい動き回っています。
お喋りもますます上手になってきました。

(島)



ひえだ まな
稗田 茉菜ちゃん
R元.11.1生

よく笑い、よく遊ぶ 元気いっぱいな女の子です。
最近上手に歩けるようになりました。
これからもたくさんの笑顔みせてね!!

(姫島)



みやすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。



環境に配慮した「大豆インク」
を使用しています。

表紙の写真 ▶ たまあーと創作工房さんからいただいた、サンブスギでできたトナカイ。
今にも動き出しそうな迫力がありますね。

(k)